

海上の森自然観察会

テーマ 春咲いた花はどうなった？

日時 2013年7月20日(土)10:00~14:30(曇り時々晴)

参加者 一般3名(子ども0)、指導員:8名

天気がよかったので、ハッチョウトンボなどを観察しようと、屋戸湿地、赤池方面を回ることにしました。

テーマが花の後はどうなっているかということなので、種(種子)と実(果実)の違いについて説明してから、マルバアオダモ、ウリカエデ、エゴノキの実などを見ながら四ツ沢に向かって歩き始めました。

湿地ではハッチョウトンボの雄は赤色が目立ちすぐに見つかりましたが、虎縞模様の雌は周りに溶け込んでいて、探すのに一苦労です。目が慣れてくると見つけれられるようになりましたが、水辺には雄が多く、少し離れた所に雌が多くいるということがわかりました。湿地ではこのほかにチョウトン、やおオシオカラトンボ、ショウジョウトンボなどが見られました。

赤池の下の木陰で昼食をとっていると、近くでサンコウチョウの鳴き声がありました。かなり近い位置だったので、声のする方向を双眼鏡で探してみると、数羽の巣立ち雛とメスのサンコウチョウが現れ、樹間を飛び交っていました。尾の長い雄の姿は見られませんでした。これだけ近くで、じっくりとサンコウチョウを見られることはめったにないことで、ついつい長居してしまいました。同じ場所でオオルリの雌も見ることができ、海上の里に向かう途中ではキビタキの雄もしっかりと確認できました。コナラの林では、樹液の発酵した匂いのしている何本かの幹を探してみるとミヤマクワガタ、ミヤマカミキリなどの甲虫がいました。子供でなくてもこうした大きな甲虫の仲間を見つけることができるとうれしいものです。植物では、オオウラジロノキやハクウンボクの実、コクランやヤブレガサの花を見ることができました。

海上の里ではショウジョウトンボの雄(赤)と雌(黄色)が杭などの先端に止まっているところが目立ちました。サテライトでは、参加者の一人が積んであった丸太の中で羽化したヤマトタマムシが小さな穴から出ようとしているところを見つけました。触角を出したり戻したりして外の様子をうかがっているようでした。

今日はサンコウチョウをはじめ見どころの多い観察会でした。

(報告:齋竹善行)



(観察会のようす)



(ミヤマクワガタ)

<観察できたもの>野鳥:センダイムシクイ(声)、カワセミ、サンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、ホトギス(声)、イカル(声)、ウグイス(声)、メジロ、ヒヨドリ、コゲラ、シジュウカラ、エナガ(声)、ツバメ、キジバト、ハシブトガラス、ホオジロ 昆虫:ニイニイゼミ(声)、アブラゼミ(声)、ハッチョウトンボ、チョウトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、キイトンボ、モノサシトンボ、コシアキトンボ、ヤマサナエ、コオニヤンマ、マユタテアカネ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ツバメシジミ、キマダラセセリ、ムラサキシジミ、ミズイロオナガシジミ、ルリシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ウラギンシジミ、チャバネセセリ、モンシロチョウ、ヤマトタマムシ、ヒメヒゲナガカミキリ、キマワリ、ミヤマクワガタ、カナブン、ヨツボシケシキスイ、ミヤマカミキリ、ノコギリカミキリ、コガタスズメバチ その他:ヤマカガシ、カナヘビ、トカゲ
実:マルバアオダモ、ウリカエデ、エゴノキ、ナツハゼ、シデコブシ、オオカメノキ、ハクウンボク、オオウラジロノキ、タカノツメ、ミツバアケビ